

センサー接続標準化

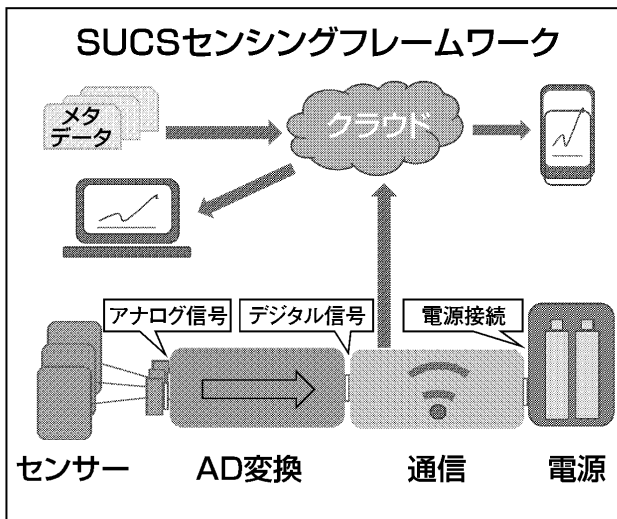
プログラミング不要 6月に指針

SUCSコンソーシアム

SUCSコンソーシアム（東京都千代田区、小林彬代表）東京工業大学名誉教授）は、接続仕様の規格化・標準化によりプログラミング無しで簡単に使えるIoT（モノのインターネット）センサーシステムのガイドラインを6月に公表する。センサー・AD変換・通信・電源の4ユニットが基本構成で、接続仕様の統一により異なるメーカーのユニットも自在に連結できる。6月にオンライン開催予定のシンポジウムで公表する予定。

センサーシステムを構築する各機器は接続仕様がメーカーごとに異なり、使用するにはプログラムを作成する必要があった。同コンソーシアムが提唱する規格ではユニットの属性データを計測データと整合性をもたせてクラウド上で処理する

者は、ユニットの認可番号とユニット全体のデータをクラウドに登録すると計測データを蓄積した多様な種類の、場所のデータは、ユニットの認可番号とユニット全体のデータをクラウドに登録すると計測データを蓄積した多様な種類の、場所のデータの相



1期は、標準化に向けたガイドラインの公開やユニットのラインアップ準備、普及活動などを推進。3年目以降は国際標準への提案や規格準拠製品の製造・販売開始、認証作業の準備、イベント開催などを進める計画。

接続の標準化に関する特許は同コンソーシアム参加企業のアスピルが保有し、参加企業は無料で使用できる。今後はKOAや、長野計器など参加企業7社が事業化に向けてガイドラインを踏まえたユニットの開発を進める。

学校教材としての活用やセンサーを使ったアイデアを募集するコンテストの開催なども検討している。小林代表は「SUCSにより、とりあえず測ってみるという『センシングファースト』の考え方を広めたい」としている。